

なか

広報

2008 No.42

- 発行日／平成20年7月11日発行
- 発行／那珂市
- 編集／市長公室企画課
市政情報室広報係
〒311-0192
茨城県那珂市福田1819-5
- ホームページURL（携帯可）／
<http://www.city.naka.lg.jp>
- メールアドレス／
kikaku@city.naka.lg.jp

7

目次／Contents

第1次那珂市総合計画を策定しました	2
議会 第2回定例会	4
収納課が設置されました	6
新型インフルエンザに対して正しい知識を	8
歴史民俗資料館だより 水鳥	10
「ふるさとづくり寄付」を募っています	12
市政だより（国民年金保険料免除制度 ほか）	13
// （特別児童扶養手当）	14
まちの話題	16
Information	18
協働のまちづくり—市民活動団体を紹介します—	20
環境ミニトピックス ほか	22
市立図書館へ行こう！ ほか	24
さわやかさん、表紙の裏側 ほか	26



あれ？…音が出ない…（本米版「ようこそ先輩！」長須与佳さん（写真右端））

八景とは：？

皆さんは旅先など風光明媚な場所
で『○○八景』という言葉を目にし
たり耳にしたことがあるかと思いま
す。文字どおり、土地の景勝地を8
か所選定したものを八景といいま
す。

起こりは、古く中国の北宋時代
(九六〇～一二二七年)で、夢溪筆
談・書画の中で湘江流域の景勝地8
か所が瀟湘八景(しょうしょうはっ
けい)として記されているのが最古
の八景とされています。この瀟湘八
景は多くの芸術家たちの水墨画や漢
詩の題材として取り上げられ、日本
へも伝わりました。

国内で見られる八景の多くはこの
瀟湘八景の影響を受けています。瀟
湘八景になぞらえ雲帆(帰帆)・夜雨・
晚鐘・晴嵐・返照(夕照)・秋月・落
雁・暮雪のカテゴリで選定されて
いるものが多く見受けられます。県
内でよく知られる『水戸八景』は天
保四年(一八三三)に水戸藩主徳川
斉昭が江戸小石川邸より水戸に下っ
たおり、藩内の景勝地を選定したも
ので、水門の帰帆・青柳の夜雨・山
寺の晚鐘・村松の晴嵐・岩舟の夕照・
広浦の秋月・太田の落雁・仙湖の暮
雪というように瀟湘八景の系統を踏
んでいます。

水鳥

7

歴史民俗資料館では今月19日から那珂八景展を開催します。そ
れにあわせ、今回は、八景についてご紹介します。

【郷土の八景】

那珂市内にも八景がある
のを存じですか？
平成八年になかなか塾が
選定した『那珂八景』は広
く知られています。実
は、そのほかにもいくつ
かの八景が確認されていま
す。ここからは、市内の八
景をご紹介します。

『那珂八景』

平成八年になかなか塾選定
・笠松運動公園・幸久橋と額田神社・
一の関池と中央公民館・宮の池と不
動院・清水寺と五台文教地区・栗原
の釣り場と下河原・県民の森と運動
公園・下江戸河原と千代橋
合併前の那珂町時代の八景。各地
区から施設や公園など親しみのある
場所が一般公募から選定された。四
季折々の風景が楽しめる八景であ
る。

『那珂町八景』

川崎紫峰選定 昭和三十二年『広報
なか』より
・一の関の落雁・富士坂の夕照・芳
南の晴嵐・木の倉雪・横堀の夜雨・
額田の晚鐘・下河原の帰帆・四堰の
秋の月
昭和三十年の一町6か村合併で那
珂町が誕生し、その記念として選定
されたと思われる。詳細は不明であ
る。各町村から1箇所(神崎は2箇
所)選定されている。

『本米崎八景』

昭和四十九年『広報なか』より
・叶岬の帰帆・上宮寺の晚鐘・稲荷
山の晴嵐・サツカベの夜の雨・薬師
山の秋の月・有ヶ池の夕照・籠内の
落雁・松原の暮雪
本米崎地内に伝わる八景。稲荷山
の晴嵐や籠内の落雁などは当時の様
子を想像することができる。しか
し、有ヶ池は埋め立てられ、松原に
は原子力研究所ができるなど、昭和
中期の面影は残っていない。瀟湘八
景系。

『額田八景』

足立崖山選定 昭和三十三年『広報
なか』より
・莊嚴無類産土森・妙法鼓声破曉寂・
校庭桜花曙光映・群螢乱舞吹上頭・
紅炎絢爛有池夕・明月皎々城跡秋・
久慈奔流崖壁碎・更賞常北連山景
漢詩で表現されている。額田神社
の森・立ち並ぶ寺院・額田小の桜・
吹上坂の螢・有ヶ池の夕・額田城跡
の秋・久慈川の激しい流れ・常北連
山を詠んでいる。

久慈川奔流



『菅谷八景』

大正十二年『那珂郡郷土史』より
 ・千本杉夜雨・不動院秋月・三宿夕照・正覚寺晚鐘・高内落雁・一本松晴嵐・京塚暮雪・後台橋帰帆
 菅谷地区も開発により選定当時の面影はほとんど見ることができない。特に一本松は現在は伐採され何も残されていない。瀟湘八景系。



後台橋からの眺め

『瓜連八景』

平成初期 柏茂氏選定
 ・白鳥舞遊古徳沼・五輪台名禽集鳴・菊水城跡常福寺・久慈清流合玉川・雨止紅鮮弁天橋・鹿島秋月照黄金・常陸二宮老杉深・花八重咲静峰景
 漢詩で八景をあらわし、場所だけでなく状況までもが記されている。文面だけでその状況が目につくようである。



静峰公園の八重桜

黒森の夜雨（鹿島静神社）



『門部八景』

明治四十三年『木崎村郷土史』より
 ・黒森の夜雨・河原の帰帆・法起の秋月・矢中の落雁・檀築の夕照・土橋の晴嵐・駒の膝の暮雪・鈴照寺の晚鐘
 古い資料の中に記されていた八景。地元でも知る人は少ない。黒森は鹿島静神社の森、法起は開蔵院跡と思われる。瀟湘八景系。

『古徳八景』

詳細不明
 ・勢揃山の秋月・玉久理山の暮雪・白旗の夕照・百段の落雁・・・
 一部しか確認できていない。古徳沼のほとり、勢揃山の登り口に「勢揃山の秋の月」と彫られた小さな石碑が建っている。大正十年に高野庄七氏が金婚式の記念に建立したもの。地元の人の話では、他の八景の碑も存在するとのこと現在調査中。



勢揃山の秋の月石碑

八景が成立する上で欠かすことのできない要素は、水とそれに付随する美しい景色だと言われています。八景の祖、瀟湘八景が洞庭湖とその周辺の景色からなることに起因するのかもしれない。市内にいくつもの八景が存在する市町村は、余り多くはありません。そうしたことから考えると、複数の八景が残されている那珂市は、

各地区に水とそれに合う美しい景色に恵まれ、また、それを八景として解した風流人が暮らした土地だといえるのかもしれない。皆さんも、周囲の景色を今一度見渡して自分だけの八景を探してみたいかがでしょうか。きっと違った郷土の魅力に出会えることでしょう。